

文書館だより

ふみくら



第8号

2006年4月25日発行

藤沢市文書館 Fujisawa city archives

〒251-0054 藤沢市朝日町12-6
電話 0466(24)0171 FAX 0466(24)0172
URL <http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>



戦前の広報誌——『藤沢町報』第1号(昭和11年・左)と『藤沢市公報』第1号(昭和16年・右)

市民が日常生活を送る上で目にする活字情報の一つに、自治体が発行する『広報』が挙げられます。戦前の藤沢町は、昭和6年(1931)5月以来、年3回の間隔で町政のあらましを収録した『自治時報』という出版物を刊行していましたが、昭和11年(1936)4月に毎月1回以上の発行をめざして『藤沢町報』を刊行しました。昭和15年(1940)10月に藤沢町は市制を施行しますが、『藤沢町報』も翌昭和16年(1941)4月に名称を『藤沢市公報』と改めました。

その内容は①行政による「告示」、②議会の動向を記した「市会」、③役職の任免などを報じる「辞令」、④その他の連絡事項を伝える「雑報」に大別されますが、日米開戦当時の市長・大野守衛による「藤沢市民に告ぐ」のような檄文や、戦争中に市民が守るべき生活上の注意書などが掲載されており、戦前・戦中の藤沢市域を考える上で非常に貴重な資料となっています。ちなみに、戦後は『藤沢市弘報』と改称して昭和24年(1949)6月に創刊され、さらに、第10号(昭和25年(1950)3月)の時に『広報ふじさわ』と改称されて、現在に至っているのです。(中村)

* 目次 *

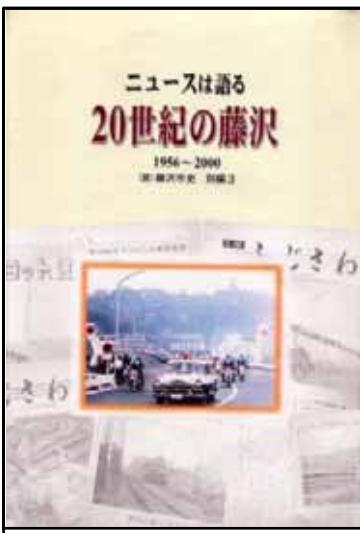
■ 戦前の広報誌	1
■ 「ニュースは語る20世紀の藤沢 1956~2000」 いま発売中です	2
■ 連載「古文書の読み方」第8回	3
■ <調査速報>『今田鯖神社の棟札を調査しました』	4

(続)藤沢市史別編3

『ニュースは語る20世紀の藤沢』 1956-2000



(市史別編2) ¥2500



(市史別編3) ¥3000

いま発売中です

このシリーズは、昨年4月に刊行した「(続)藤沢市史別編2」に続くもので2冊セットで完結したものです。新聞記事を題材として藤沢の近現代史を解説しています。同時に文書館では「藤沢市史研究」第39号、「藤沢市史料集」第30号、「藤沢山日鑑」第24巻も同時発行します。頒布は4月24日から文書館「市民資料室」と市役所本館「市政情報コーナー」(直接販売)及び市民センター、公民館(取次販売)です。今年度から藤沢市書店協同組合の加盟店でも他の有償刊行物とともに取り扱うことになりました。また、郵送頒布の受付は文書館で受け付けていますので、ご利用ください。詳しくは、この頁の下の記事をご覧ください。

「藤沢市史研究」第39号 (¥800)

〈論文〉

- 「大庭御厨における在地住人と伊介神社祝荒木田氏」(伊藤一美)
- 「『文學世界』における内藤千代子」(仙波千枝)

〈歴史講座〉

- 「源義朝と大庭御厨」(伊藤一美)
- 「中世都市鎌倉の発展と藤沢」(永井晋)
- 「後北条氏と藤沢」(柴裕之)
- 「大鋸一藤沢宿の大鋸引職人をめぐって」(西ヶ谷恭弘)

〈書評・新刊案内〉

- 奥須磨子・羽田博昭／編「都市と娛樂 開港期～1930年代」(黒川徳男)
- 相模原市総務部総務課市史編さん室／編「相模原市 現代

図録編 (上山和雄)ほか

「藤沢市史料集」第30号

藤沢宿役人史料 1 (¥400)

今回の史料集では、藤沢宿役人であった鎌倉屋平野家文書から、宿場関係の史料のうち藤沢宿の時田本陣関係の史料を中心に収録しました。

「朝鮮人一件御用留帳」や「町内手控帳」のような藤沢宿の動向を知る上での好史料から、鎌倉屋の親戚筋にあたった時田家の藤沢宿本陣としての活動の史料など、藤沢宿の歴史についてを知る上での貴重な資料を収録しています。他にも、「浅野内匠頭様御宿割帳」(写)と題する史料などを収録しました。また、郷土史家の平野雅道氏による解説も付されており、江戸時代の藤沢宿についてを知るための好材料となるでしょう。

「藤沢山日鑑」第24巻

(¥4500)

市内西富にある遊行寺(藤沢山清淨光寺)に残されている日誌を、翻刻したものです。遊行寺や周辺地域の出来事、来訪者、天候などが記され、藤沢の歴史を知る貴重な資料です。この巻には嘉永5～7年(1852～54)までが掲載されています。

嘉永5年11月には日蝕があったこと、同6年7月には浦賀に異国船が渡來したことなどが記されています。

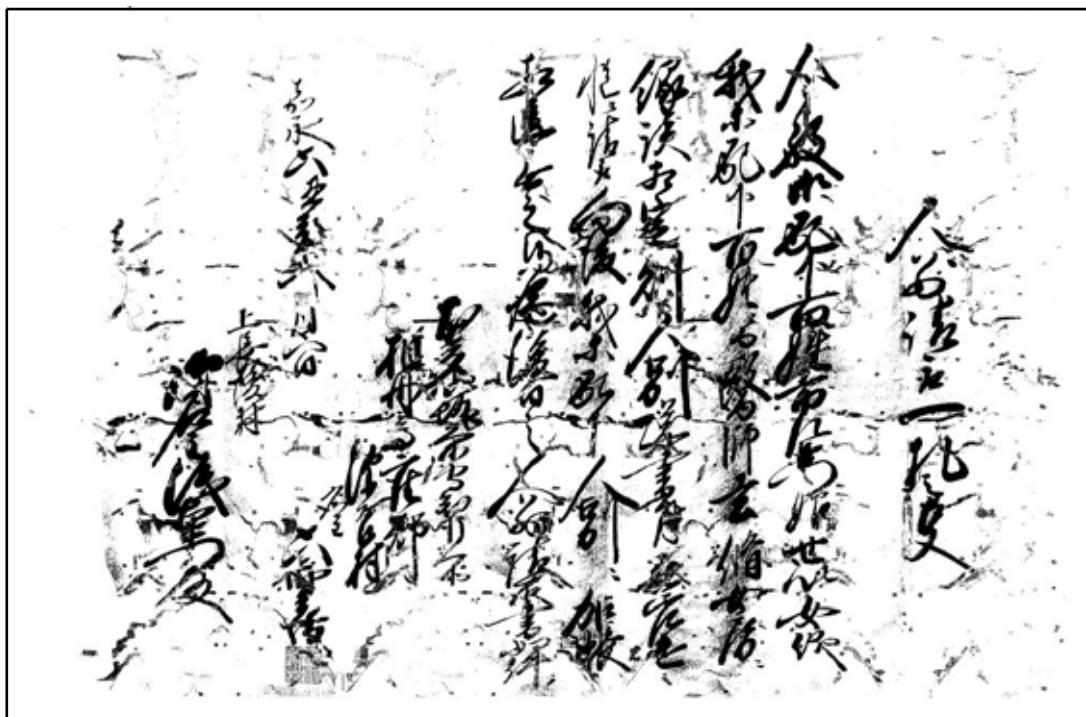
口絵は遊行寺が所蔵する「後醍醐天皇像」(重要文化財)です。教科書等でご覧になった方も多いでしょう。

巻末の解説は「清淨光寺蔵の後醍醐天皇像」で、この絵像が遊行寺に所蔵された由緒について述べられています。

『有償刊行物』は市内の書店で購入できます

藤沢市では、いろいろな分野の刊行物を発行しています。それらの有償刊行物を藤沢市書店協同組合の加盟店舗で購入できるようになりました。今までの、文書館「市民資料室」と情報管理課「市政情報コーナー」での販売と市民センター・公民館での取次販売も引き続き行いますのでご利用ください。書店での販売は、4月24日(月)か

らです。なお、書店の店頭で購入できるものと注文販売のものがあります。また、郵送による販売は、文書館にご連絡ください。現在、刊行している有償刊行物一覧は、書店の店頭に備え付けの「藤沢市の有償刊行物のご案内」または、藤沢市文書館のホームページをご覧ください。



1 人別にんべつ請取うけとり一札いつ さつのこと 今般こんばん御配下ごはいか百姓ひ やくしょう市左衛門娘せい女儀 我等配下百姓にて医師玄脩女房に 縁談相定えんたんあいきため、則す なわち人別送書付にんべつおりか 憋しつけ被差遣さしつかわされ 憋たしかに請取向後こうご我等配 下人別に加帳 相違無之候 そのいこれなくそそうろう、 後日之じつのため人別請取書如件 くだんのじとし、(以下略)	2 1 4 3 5 6	1 人別にんべつ請取うけとり一札いつ さつのこと 今般こんばん御配下ごはいか百姓ひ やくしょう市左衛門娘せい女儀 我等配下百姓にて医師玄脩女房に 縁談相定えんたんあいきため、則す なわち人別送書付にんべつおりか 憋しつけ被差遣さしつかわされ 憋たしかに請取向後こうご我等配 下人別に加帳 相違無之候 そのいこれなくそそうろう、 後日之じつのため人別請取書如件 くだんのじとし、(以下略)	3 2 1 1 1 1	4 3 2 1 1 1	5 4 3 2 1 1	6 5 4 3 2 1	1 1 1 1 1 1						
(読み方)													
嘉永六丑年八月六日 上長後村 御名主浅右衛門殿	本多筑前守知行所 相州高座郡 深谷村 名主 六郎兵衛 印	1 「人別請取一札之事 今般御配下百姓市左衛門娘せい女儀 縁談相定則人別送書付被差遣 懈二請取向後我等配下人別一加帳 相違無之候、為後日之人別請取書如件											
(解説)													
<p>今回の古文書は、虫損などもあり初級の方には少し難しかったかもしれません。1行目「人別」の「別」や「請取」の「取」という文字ですが、「別」については4・5・6行目、「取」については5・6行目の場合のように同じ文書の中で異なるくずし方をしています。「事」は原文では「古」という字の下に「又」という字を書く古文書特有の変形文字で「異体字」といいます。また2行目「我等」の「等」は「木」とう字に見えますが、これも「等」の異体字です。同じく2行目「二而」も古文書ではよくでてくる字句です。5行目の「慥」は「確」に同じですが、古文書では「慥」のほうが使用例が圧倒的に多いといえます。4行目の「被差遣」、6行目の「無之」、「為後日」、「如件」は漢文訓読のように前に帰って読みます。古文書ではしばしばこのような読み方をする箇所がでてきます。内容についてですが、この古文書は嘉永6年(1853)旗本本多筑前守の知行所(ちぎょうしょ)の相州(相模国)高座郡深谷村(現綾瀬市内)の名主から上長後(現藤沢市長後の一部)村名主宛に出された人別請取書(人別受取状、受取一札ともいう)で、上長後村の百姓市右衛門の娘せいが深谷村の百姓で医師の玄脩と結婚したことにより、上長後村の宗門人別帳から除帳され「人別送り状」によって、深谷村に送られ、確かに同村の宗門人別帳に加帳されたことを証明するため深谷村の名主から上長後村名主宛に出されたのがこの人別受取書です。前々回紹介した「人別送り状」や「人別受取状」は当時の人口移動を知ることができる史料です。(石井)</p>													

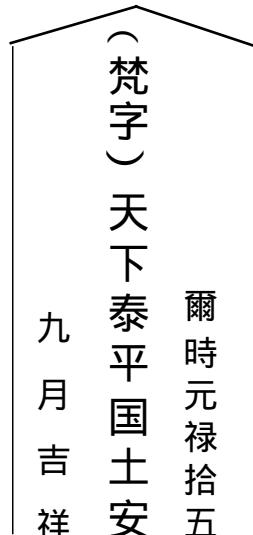
今田鯖神社の棟札を調査しました



煤けた棟札に赤外線を
あてると・・・



墨の部分が浮かび
あがります →



目視と合わせると
これだけの文字を
読みました

※写真は元禄15年棟札(部分)です

去る3月12日(日)、今田鯖神社内の新しい厨子に、ご神体であった神像と棟札類が安置されました。

同神社は1995年と2001年に二度の火災にあり、氏子の方々のご尽力で、そのつど建て直しが行われました。当時のご神体は嘉永5年(1852)に納められた像でしたが、この火災により焼損を受けました。そのため新たに作られた神像にその座をゆずられ、同時に焼損した棟札類とともに、歴史を伝える文化財として末永く保存されることになったのです。

それに先立ち、同神社保存会代表総代の方が棟札類に記された内容の調査にみえられたため、当館でも調査をさせていただくことができました。

棟札とは寺社などの建立の際、年月日や関係者の名前を木札に記し、棟木に打ち付けるなどしておくものです。

棟札類は7点ありました。内訳は、棟札が4枚、祈禱札が3枚です。煤けて文字が見えない部分もあり、生涯学習課の文化財担当と博物館準備担当の協力のもと、赤外線の照射による文字の判読を試みました。

その結果、完全に炭化している部分は無理でしたが、かな



今田 鯖神社

りの文字を読み取ることができました。

棟札の年代は元禄15年(1702)・享保5年(1720)・天保15年(1844)で、天保15年は2枚あり、うち1枚は「天照皇太神宮」の再建のものでした。残り3枚が鯖神社のものです。元禄15年は同神社の創建の年と伝えられていますので、創建時の棟札が残されていたわけです。

祈禱札は寛政11年(1799)・嘉永5年(1852)・明治2年(1869)のものです。

興味深いのは、棟札1枚と祈禱札2枚に「法主」といった立場で「諏訪山 玉蔵院」という名が記されていることです。しかし今田村にこの寺があったという記録はなく、伝承も伝わっていません。調べていくと、片瀬の上下諏訪神社の別当をつとめていた修験の玉蔵院(現存しません)だということがわかりました。

今田と片瀬は距離もあり、しかも高座郡と鎌倉郡で郡も異なっています。いったいどういう関わりで、片瀬の玉蔵院が、今田村の法主を務めることになったのでしょうか。その謎解きは、今後の課題です。

最後になりましたが、調査のきっかけをいただき、また、貴重な史料を快くお貸しくださった、今田鯖神社保存会の皆様に、厚く御礼申上げます。(酒井)

◇◇ 編集後記 ◇◇

今回新たに設けた「調査速報」でも紹介いたしましたが、火災によって煤けた棟札でも、科学の手が入ることで、肉眼では読み取れない文字も解読できるようになります。また、くずし字などで記されていてすぐには読み取れない記録であっても、藤沢地域の歴史を伝える非常に貴重な資料です。文書館では資料についての皆様からのご連絡やお問い合わせを、常に受け付けております。(中村)